講評

第 17 回公共建築賞 四国地区審査委員会 委員長

高知工科大学名誉教授
大谷　英二

公共建築賞・優秀賞
文化施設部門（四国地区）

あかがねミュージアム　新居浜市総合文化施設・美術館

あかがねミュージアムは、美術館単独でなく、地域の歴史・文化等の幅広い分野を対象に、地域に根差した文化的な活動を美術・音楽・演劇等の表現活動により発信する新居浜市民の総合文化施設です。

これら3つの機能を融合させるための空間構成・機能配置は、たいへんによく考えられています。エントランスホールを中心に機能が連結し、日々展開する多様な文化活動の舞台となっています。

またエントランスホールの屋内ステージと屋外ステージがつながっており、さらに、敷地の四隅の交差点からのアプローチにより「道」をつくり、開かれた施設ともなっています。

その結果、ほぼ毎日、イベントや教室、講座が開催され、屋内ステージは、イベント、講演、座談会、演奏、練習、遠足の休憩・食事等、さまざまな用途で生き生きと使われており、小劇場（ホール）は、平土間から客席まで多種多様な使い方ができ、スタジオは、夜間利用等が好評です。

基本設計、実施設計では、BIMをフル活用し、施工では、銅板葺は、伝統的な板金工事とBIM技術の融合により、複雑な曲線のデザインを破綻なく完成させています。

また立地条件から新居浜駅前のまちづくりの拠点となっており、建物の外観は新居浜の発展を支えた別子銅山を象徴する銅、県産材の輝緑岩石積といった、時と共に風合いを増していく素材を用い、玄関口にふさわしい景観をつくっています。

公共建築賞・優秀賞
行政施設部門（四国地区）

鬼北町庁舎（本館・別館）

鬼北町庁舎は、洗練されたデザインとHPシェルを用いたモダニズム建築で、1958年、建築家レーモンドにより設計された歴史的・文化的価値のある建築物です。近代モダニズム建築を後世に伝えるためのリノベーション（保存と活用）は、たいへんに意義があります。

そのため、日本建築学会に「鬼北町庁舎再生改修」の調査を委託し、真摯な態度で改修を進めています。

例えば、建設当初のイメージをできる限り変えないようにすることを前提に、当時のストイックな仕上げ、素材感を変えないことなどです。

また重要度係数1.5を確保した耐震補強の構造設計が見事で、その結果、形態の保全につながり、かつ、工事費も安価となりました。

さらにホールの改修により、ワンストップサービスによる町民の負担軽減の実現やバリアフリー化、キッズコーナー、エレベーターの設置等の利便性向上や、窓ガラスをペアガラスにするなどにより、室内環境の快適性を向上させています。

加えて、庁舎の再生の制約を逆に利用し、当番制の総合案内、私物化しない机、キャビネット制限等々、床面積の有効利用を図るとともに、職場の環境からの職員の働き方の改革へと進化しています。

公共建築賞・優秀賞
生活施設部門（四国地区）

愛媛県立中央病院

愛媛県立中央病院は、PFI事業の採用により、質の高い医療サービスの効率的な提供をし、機能的な総合医療センターとなっています。

設計は、病院建築のこれまでの知見（ストック）を活用し、コアの集約により明快な動線を実現し、目的別専用エレベーターにより、感染管理と利用効率を高めており、破綻のない建築となっています。

その上で、施工段階での既存病院との制約からオーバーハングして生まれた3層吹き抜けのアトリウム空間である「光のプラザ」は、明るく開放的な大空間をつくりだし、この「光のプラザ」は、各種イベントの開催や災害時の活動拠点として地域に開かれています。

周辺環境との関係では、前面道路の渋滞を解消するため、広いロータリーと数多くの駐車場を設けています。

設備では、災害に強い熱源システムを構築しており、メンテナンスでは、天井裏にキャットウォークを設けることで機能を止めずに作業をすることができるようにしています。

（受賞作品掲載は地区推薦順）